

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
令和6年度 第2回就労支援部会 会議録

日 時 令和6年8月19日（月）13:00～15:00

場 所 乙訓保健所 講堂

出席者 14名

就労移行支援事業所ステージ、しょうがい者就業・生活支援センターアイリス（2）、乙訓障害者支援事業所連絡協議会（2）、京都府立向日が丘支援学校（1）、京都七条公共職業安定所障害者職業相談室、乙訓地域商工会広域連携協議会、乙訓やよい会、乙訓の障がい者福祉を進める連絡会、乙訓保健所福祉課、向日市障がい者支援課、長岡京市障がい福祉課、大山崎町福祉課

欠席者 2名 京都府立向日が丘支援学校（2）

事務局 3名

傍聴者 1名

配布資料

- ・次第
- ・庁内実習実施要領（案）
- ・就労移行支援・就労継続支援A型・B型・自立訓練 基本情報（案）
- ・基本情報回答事業所一覧

会議概要

1 庁内実習について

委員

- ・8月6日に調整会議を行った。申し込みのあった4名の受入が可能という返事をもらった。
- ・乙訓教育局はこれまで向日が丘支援学校の生徒を受入れるという中で実施をされてきた。一般の方の受入が現段階では難しいということで、今回、乙訓教育局は受入なしとしている。
- ・大山崎町の2名と長岡京市の3名については申込がなかったので追加募集したいと思う。
- ・調整の中で出てきた話で、受入の顔合わせまでにプロフィールをもらえれば準備がしやすいという声が出ていた。顔合わせまでにプロフィールを準備したいと思う。
- ・調整会議では庁内実習はファーストステップという捉え方をすると、ファーストステップを何回もすることに意味があるのかという意見も出ていた。業務内容や設定日数が違うので、何回かファーストステップを踏んでも良いのではという意見も出ている。皆さんの意見を聞かせていただきたい。

部会長 ・過去には2年連続で実習された方もいる。それを同一年度ですることが良いことなのか。優先

順位は初めて応募される方になると思う。一度経験して、2回目に複雑な仕事内容、長い日数、通勤距離が長い等、目的の使い方があると思うので、次のステップを踏むということが明確であれば受入も考えられるというのが調整会議で出ていた意見である。

委員 ・欠員が出るよりは良いと思う。本人にとっては2回目だが、受入側にとってはその人が初めてになる。庁内実習は実習者・受入側双方の経験を蓄積することに意味がある。本人のステップアップだけでなく、受入れる側が、将来障がいがある人をどう雇用していくか、どのように一緒に働いていくかということを考えていくための糧となり、それも意義深いと思う。欠員があるのなら、同じ人を受入れても良いと思う。

委員 ・庁内実習を最初に経験した時と目的や状況が変わっていれば、長岡京市としては希望があるなら受けたいと思っている。

部会長 ・2回目を希望された方も受入れる方向で進めていきたいと思う。ルールとして、1回目の申込の時に第1希望、第2希望と書いてもらうのだが、ここもここも行きたいというような書き方はしないようにしていきたいと思う。

・就労支援部会としては周知方法に課題があると仮定し、今年度は就労系事業所を訪問して説明した。事業所訪問の時に支援者側から庁内実習についての意見が出ていたと思う。庁内実習の定員割れが続いているところで、原因がわかるような意見があったのか、出ていた意見を教えていただきたい。

事業所訪問で出ていた主な意見

- ・庁内実習のイメージがしにくいような申込みになっている。
- ・庁内実習後のことが見えてこない。
- ・事務作業の実習を打ち出しているが、身体を動かすような実習があれば良い。
- ・期間が限定されている。
- ・庁内実習はどのような所で、どういう風にするのか写真等があれば良い。
- ・一般就職を希望する人はすでに必要な機関に繋がっている。
- ・同じ事業所の知り合い数名で庁内実習に行けるなら参加しやすい。
- ・庁内実習経験者の声を聞けると響きやすいのでは。
- ・実習中工賃がでない。
- ・実習後そこで就職できない。
- ・職員がどんな所か事前に見に行けるとよい。

部会長 ・実習後そこで就職できないのか等、庁内実習の目的と合致していないような意見も出ていた。
・案内時に写真を入れる等、募集方法に工夫が必要かもしれない。このような意見だけが定員割れの要因だとは思っていない。ひとつの要因として、周知活動をしっかりやっただけで庁内実習に対するイメージが推薦者側にしっかりついていないことと、こちらが思っている庁内実習の基のところがうまく説明しきれていないことがあるように思っている。

委員 ・実習に行くことで、その人に火をつけるのに、その後の処理をしてもらえない。何のためにするのかという意見があった。その後、どうしていけば良いのかという話だった。

副部会長・施設外就労という感覚で行けたらという意見もあった。事業所としての行事ごととして、慣れ親しんだ人と一緒に行く形の方が望ましく、ハードルが低く感じるということだった。

委員・普段と違う所で、違う交通手段を使って、違う人達と仕事をするというところにひとつ庁内実習の意味があると思う。そこは乗り越えてもらいたいと思う。

委員・就労継続支援A型（以下、就Aという。）の事業所からは教えてもらうことも多かった。雇用ありでの実習というような手段等、他の選択肢をすでに知っておられて、庁内実習はいいかなというリアクションをされることも多かった。

部会長・社会体験の場が欲しいというようなことを庁内実習に求められても違うと思う。その辺りの線引きはきちんとしなないといけないと思っている。支援者側が押し出すことに慣れていないところがあるように思う。どう見極めていくかということに慣れていないように感じている。

委員・今回、実習の様子を写真に撮って、次年度使えるようにしても良いだろうか。

部会長・どういう感じでやっているのかわかった方が良いと思うので、こんなところで、こんな実習をしているというのを申込書に載せても良いかと思う。

委員・セカンドステップを考えた方が良いかと思う。就労支援部会としてファーストステップを準備している。セカンドステップをどこに、どう設定していくのか。

部会長・セカンドステップで乙訓障がい者就労支援ネットワーク「たけのこ」（以下、「たけのこ」という。）を頼ってもらおうと思っている。実習を希望する人がいれば受入れるという企業が多くいるので、そこで次のステップを掴んでもらい、その次に雇用ありきの事業所に行くというステップを踏めるように思う。「たけのこ」の事務局をしょうがい者就業・生活支援センターアイリス（以下、アイリスという。）が兼ねているので、アイリスへの登録等の案内はできる。事業所だけで次のステップを用意するのは難しいと思う。何をを使うのか、情報提供として伝えられるように思っている。

委員・実習の振り返りは実習の受入先と本人と紹介元で行われるのだろうか。

副部会長・通っているところで次の目標を持つ方もいれば、次のステージに行こうかという人もいて、実習者によっても違ってくる。そこは実習者と推薦機関で相談していただく。

ただ、こういうステップがあるというのは事前に伝えた方が予測もつきやすく、安心して送り出しやすくなるように思う。

部会長・庁内実習の元々のところで事務的な仕事の実習がなかなかないというところで、市役所等をお願いをしているので、身体を動かす作業の実習となるとまた違ってくるところがある。公民館や図書館は実習先を広げるところで今後の課題だと思っている。

副部会長・実習内容をあげてはおくが、本人がこういうものをやってみたいということであれば、検討はしていただけるような話も聞いたのだが。

委員・用意させていただくものを多めに持っておくと、その中から色んな組み合わせを作り、相談しながら最終的に何をやるのかを決めることはできるかと思う。

副部会長・どこまで確実性というか成熟したものを実習の中でしないといけないのか。普段の作業と結びつきにくいという意見もあった。

委員・完成度はそこまで求めていないと思う。お知らせしている内容が目安になる仕事をしていただくことになる。

- 委員 ・事前打ち合わせで確認をするので、無理があるような作業をしてもらうことはない。
- 部会長 ・受入側としては初めての仕事の習熟度を見たりしている。
・庁内実習の広報の時にわかりやすい写真を入れて、イメージが付きやすいものにすることはできると思う。次のステップに関しては「たけのこ」があることを発信できるかと思う。推薦事業所を広げていく努力は必要だと思う。
・資料として「庁内実習実施要領（案）」をつけている。今年度から調整会議をすることとなった。その記載を「11 受入調整会議」として追加している。加えて、「3 庁内実習対象者」の（1）のところで一部、追加記載となっているので確認いただきたい。
・「別添（案）」にも「④受入調整会議」を加えている。こちらも確認いただきたい。
- 委員 ・乙訓圏域外に住んでいて乙訓圏域の事業所を利用している方の受入会議についてはどこで検討するのだろうか。
- 部会長 ・受入側との調整も必要になる。優先順位もある。乙訓に住んでいて乙訓の事業所に通っている人が、優先順位が上になってくると思う。そこを受入調整会議で検討することになる。

2 就労継続 A 型、B 型の基本情報の集約について

参考資料：就労移行支援・就労継続支援 A 型・B 型・自立訓練 基本情報（案）

基本情報回答事業所一覧

- 部会長 ・事業所のどういう情報があればわかりやすいか、項目をあげている。対象となる事業所は就 A、就 B（就労継続支援 B 型、以下、就 B という。）と考えていたが、自立訓練や就労移行の事業所も対象に加えて良いかと思っている。
乙訓圏域の就労に関する事業所の一覧を付けている。
この項目だと事業所選び、就職先選びに必要なことが最低限わかるかなと思っている。
- 委員 ・毎年更新していくことが大事になってくる。
- 副部会長 ・更新についてもデータ管理をどうするのか。どこのサイトに載せていくのか等も大事である。
- 部会長 ・自立支援協議会のホームページには載せることができる。市役所のホームページにリンクが貼ってもらえると良いように思う。
- 委員 ・何が知りたいのか。対象者が一般の方と計画相談の相談員が調べやすいようなことが書いてあれば良いのだろうか。問い合わせで多いのは空きがあるかどうか、工賃はいくらか、休みはいつか等である。
- 部会長 ・紹介する側もどういう仕事をしているのかを知っていないと、知っているところばかりの紹介になってしまう。文字ばかりでわかりにくいかもしれないが、こういう一覧を見て情報を得てもらえるようなものになれば良いと思っている。
- 委員 ・誰に共有すべきものなのか。一般全ての方に共有すべきものなのか、支援者がわかれば良いものなのかでやり方も変わってくると思う。ちなみに児童発達支援プロジェクトではあくまで支援者、決められた機関に情報がある。毎年更新するが、持っているのは定められた機関が持っている。一般に公開する形にはなっていない。
- 委員 ・昨年度にこの基本情報についての提案があり、その趣旨は、実態を検証するということであったと思う。就 A、就 B 等実際の仕事はどのようなのか。きちんと就労支援がなされているのかという

点まで疑問を持たれて、地元のところから検証していく必要があるという問題提起があった。単にデータとして情報を流すという話ではなかったと思っている。家族や相談支援専門員、利用者の次のステップを考えている就労支援の方に対して生きた情報が、地域で必要ではないかということだったと思う。

・本日の参考資料のようなカラーで1事業所1ページの、その場の雰囲気がよく伝わるようなものができればと思う。この地域で希望を持ちたい。こんな良いものがあると思えるようなものができれば良いと思う。

部会長 ・誰を対象とするのかは本来であれば、それを使いたい利用者等使いたい人がわかりやすいものというのが一番だと思っている。関わっている人達も次のステップと考えた時に、どこの事業所が選択にあるのかが今までだと関わりのある事業所しか説明ができなかったり、資料がなかったりする。それではいけないということが出てきた話だったと思う。その事業所のことが手に取るようにわかるようなものを作りたいとは思っている。データで残すことを考えているが容量の問題もあり、なかなか厳しいように思っている。まずは、どういうものがあれば良いのかということから進めていきたいと思っている。

・働く事業所を探しているとなった時に、自分の家からどうやって通うのか。通えないなら送迎はあるのか。どういう仕事があるのか。何時から何時まで働くのか等を考えるように思う。

委員 ・それは誰が探すのか。本人がどこか出て行こうとした時の支援の方がそれを使おうとしないという意味はないのではないだろうか。その支援の方や計画相談の方が使いやすいものが良いのか。乙訓で希望を持ちたいという意見があったが就労を通してそうやってほしいというところで、この部会があるのだと思うが、それではだれが見るのか。載せるデータもそうだが、何のために作るのかなと思った。本人は庁内実習をして、そこに就職はできないけれど意欲を得た。庁内実習の目的として意欲を高めることもあるのでそれで良いのだが、そのまま一般企業の実習に行ってみようとならないのであれば、就 B から就 A に行きたいと思った時にそこも実習にもならないのか。その時には絶対にそういうのを見たいのか。そういう時に使うのか。どうなのだろうと思った。それは支援者なのか、本人なのか。

委員 ・ネット上の情報構築でなくてもまずは良いのではないかとと思っている。正直、いい加減な事業所も乱立しつつある中で、フィールドワーク的に誰かがそれをきちんと見ていく必要があると思う。支援学校ではそういうデータをきちんと作っていると思う。

委員 ・毎年、定員や配置、内容は変わっているので、その時々で足を運ぶが必要になってくる。

委員 ・支援学校の進路部ではきちんと把握されている。それを活用させていただけたら良いのではないか。その上で、相談支援ももちろん大事なことだが、それだけに任せておける状況ではないのでは。本人、家族が手にできる情報が少なすぎる。相談支援専門員だけに頼っていれば大丈夫という状況では全然ない。できるだけ地域の情報を広めていく、皆が手に取れるようにしていくことが大事である。まずはきちんと検証していく。ある情報は活用しつつ、やっていければ良いと思う。

部会長 ・イメージしていたのは福祉のしおりの障がい者就労版みたいなものができればと思っている。そこにイメージできるような情報が盛り込んであれば良いかと思う。一旦、紙ベースで作って、1年更新になるかと思う。

- 委員 ・全体網羅は難しいと思う。たたき台的にどこかにスポットをあてて作ってはどうか。
- 委員 ・作って、誰に配るのか。置いておいて、勝手に持っていてもらう形にするのか。専門の方だけが持つ資料ではなく、一般の方にも手に渡るように作るのは良いが、作ってどう配布するのか。
- 事務局 ・自立支援協議会なので、それぞれの委員がそれぞれのフィールドを持っていて、その中で地域の課題を出し合っていたところから最初にある。委員からの一つの提案という形でこの話はスタートしたと思っている。その中で色々な意見があったが支援者が持っている情報に差がある。就労支援部会、「たけのこ」の共通のキーワードは支援者の質の向上である。基本的な情報を持っていないと、利用者、家族に渡せる情報に差があるのはどうなのかというところで基本情報をまとめていく。相談支援としてはかなり役立つと思っている。ただ、更新をしないと意味がない。更新をどうするかが課題ではあるが、相談支援の立場からするとありがたい情報だと思っている。しかし、この情報が全てではないと思っている。児童発達支援プロジェクトでも同じものを作ったが、あくまでこれはきっかけであり、これをきっかけに気になるところがあればちゃんと見に行ってもらいたい。これを見て全てわかるものは作れないと思っている。そのきっかけになるものが作れたら良いと思っている。
- 委員 ・各事業所の支援者が持っている情報が統一であった方がもちろん良い。質があがっていくところに繋がっていくのだと思う。
- 事務局 ・相談員が持つ情報に差が大きいのは問題だと思っている。全体的に底上げするには何が必要かというところで、基本この地域の情報をちゃんと持ってないと利用者に紹介もできないし、話もできない。
- 委員 ・そのために活用するのであれば、作成したらまずは各施設や学校、事業所に職員分を配布する形が一番なのかなと思う。何のためにというところが明確であればわかりやすい。その先がたぶんあるということだと思う。更新して、これを出して、その次にどう繋げるかということになる。
- 部会長 ・特に支援者側が乙訓圏域にどんな事業所があるのか等、必要最低限持っていないといけない情報を同じように認識しておくことがひとつある。何を見たら良いのか、揃えたものが良かった方が良い。この間、支援者側の質という話が結構出ている。一旦、支援者側がわかりやすいものを作っていってはどうか。同じ情報を持って、どの人に対しても同じ情報が出せるものが必要である。就労支援部会で作るならまずは同じ地域で働いている人達を知るところから始めることで作っていければと思う。
- 委員 ・今日付けている資料はどのような項目があったら良いかを参考にしてもらうために羅列したものである。このような項目を事業所にアンケート方式で答えてもらうこととする。わからないところは電話か訪問で聞いていく形にしたい。足りない項目等が出てきたら、また検討したい。
- 委員 ・回答は一旦メールか FAX でいただき、回答が悪いようであれば訪問していきたいと思う。
- 委員 ・パンフレット等を作っている事業所は可能であれば添付で一緒に送ってもらえるようお願いできればと思う。QR コードも活用できるなら活用していければと思う。
- 委員 ・ある程度フォーマットが決まってから、事業所等に送った方が良いと思う。
- 部会長 ・次の部会で事業所から返ってきた情報を一度出していただき、修正を加える時に訪問しないといけないのか話し合えたらと思っている。
- 委員 ・基本情報の項目の中の平均工賃の記入欄があるが、記入方法は？

一人あたりの、いつからいつまでの平均工賃と考えたら良いのだろうか。

委員 ・一年間で実人数で何人来たか。7時間の人もいれば4時間の人もいるが全部ひっくるめてになる。4時間の人だと月8万程だが、14万の人もいるので平均は9万程度という計算になる。

委員 ・「医療的ケア対応」のところで看護師がいる曜日等がある。対応できる曜日が決まっていたりする。それが書き加えられたら良いように思う。

委員 ・各事業所でインスタやフェイスブックをされているなら URL の横に SNS も書いて良いとしておけば、公式ページのない事業所も書いてもらえらると思う。

部会長 ・一旦、こういう形でさせていただき、次回検討させていただきたい。

3 学習会について

部会長 ・就労支援部会主催で学習会をする方向で動いている。前年度に行った学習会のブラッシュアップ版をしたいという意見が出ていた。時期はいつ頃が良いだろうか。今回は色んな機関の内容を紹介してもらおうような学習会だった。

副部会長 ・色んな機関を知ったけれど、何をどう活用したら良いのかが結局わからなかったという意見があった。

部会長 ・支援者が利用者が就職したいと思っていることに、どういう風にアプローチしていけるのかイメージできるような学習会をしたいという意見があったと思う。

委員 ・庁内実習をされて一般就労したいと思った方が、なぜ一般就労したいと思ったのか、そこからどんな取組があって、最終的にどうなったのかという事例を何パターンか発表できる勉強会があればわかりやすいと思う。

部会長 ・事例を使つての勉強会はよく出る話で良いと思う。個人的に思っていることは、事例に対してどういう機関と繋げて、どういう効果を望んで、どういう風に展開していくのかを自分達も考えてみるのも良いと思っている。実際の事例に対して報告を聞くだけでなく、自分達で考えるとどういう風に使えるのか等、よりわかりやすいかと思う。

・対象は就労をしたいと思っている障がいのある人に関わる人達全般にしたいと思う。

委員 ・現在福祉型就労の支援をしている事業所で、一般就労の実績をあげている支援の実際を語れる人がいれば話を聞きたいと思う。京都市の就労継続支援事業所あむりた（以下、あむりたという）はどうか。工賃を上げている就Bの話も聞きたい。例えば、滋賀県のがんばカンパニー。そういうところの話が聞ければ良いと思っている。

副部会長 ・「たけのこ」の福祉と企業の交流会の報告の中でもあげさせていただいたが、福祉就労から企業就労された方はいる。

委員 ・福祉の支援者がその時にどんなことをしたのか、どんなことに困ったのか等を聞きたい。

委員 ・あむりたの場合はずっとそこにいるということがない。一般就労に押し出していつている。それだけ厳しくて、合わない人には合わないところはあると思う。しかし、実際にどういう手立てでというところは勉強になると思った。

副部会長 ・実際に働くところまでの支援をされた就A、就Bの話と合わせて事例検討もできた方が、地域の底上げを考えるうえでも自分事として考えてもらいたいという思いはある。

部会長 ・庁内実習をされた方のその後のところで出てくるケースもあると思う。過去10年やってきた

中で就労された方もいると思う。その辺りから事例は出せると思う。

・この学習会は昨年と同様に学習会と部会を同時並行で、学習会の後、残り時間 30 分で部会をする形で開催したい。詳細については詰めさせていただき、次の部会までに情報提供できるようにしたい。

4 乙訓障がい者就労支援ネットワーク「たけのこ」から

副部長 6月に福祉と企業の交流会を行った。数年、当事者の方と企業との交流会であるミニ企業交流会を開催したが、参加者が少なかった。そのため、支援者に就労のイメージを持ってもらえた方が良くということで行われた。「一般就労のイメージが持てた」、「就Bからまずは就Aに行けた方が良く」、「就Aのことをもっと知っていききたい」等、色々な意見をいただく機会となった。

・「たけのこ」ではこの後、支援者の方の支援をどのような形でしていけば良いのかについて話し合う予定をしている。

・「たけのこ」でもう一度勉強会をしていきたいという思いがある。同じ圏域の就労の施設の方に出てきていただく研修会となると、場合によっては「たけのこ」と今回の就労支援部会の学習会を併せて行うのか、この後話し合いたいと思っている。

部長 学習会については色々なネットワークのところで学習会を企画しているところがあり、併せてできるのであれば合同でさせていただこうと思っている。

次回 10月29日(火) 10時00分から 乙訓総合庁舎 第2会議室